

案1:現状踏襲案



現状の交通広場としての機能を維持し、
円形公園は象徴的空間として保存

案2:円形公園活用品



広場内を公共交通中心として通過交通を減らし、
円形公園周辺を憩いと活動の広場として活用
※広場内は一般車も通行可能

案1と類似した駅前広場活用の参考事例：自由が丘駅



日常的には交通ロータリーの空間。
年に1度の女神祭りではロータリーを含めた駅前全体を使ってイベント展開する。



整備方針

- 年に1回程度、イベント的に広場を活用 -

広場活用時のみ、交通規制によって
駅前に広場空間を作り出す

日常的には、円形公園には近づけないものとする。
(円形公園は象徴的、非日常的空間とする)

広場のイベント利用は年に1度程度が限度と考えられる。
※駅前を交通遮断するために、警察協議などの手続きが必要

- 憩いと賑わいの日常空間としての広場活用 -

特別な交通規制をすることなく、
日常/非日常でさまざまな広場活用が可能

日常的に人々が憩い子供が集う、噴水や緑を活かした広場。
活動時には水をとめ、広々と使えるデザインとする。

通過交通は駅前広場を通らないが、
一般車の広場内通行、寄り付き自体は可能。

広場としての利用

案2と類似した駅前広場活用の参考事例：門司港駅



駅舎前面に連続した歩行者広場空間を創出。
路面噴水が子供達の憩いの場となるとともに、イベントスペースとしても活用されている。

空間比較

南広場全体面積=約7,500m²、そのうち歩道+広場面積=2,600m²

東側歩道幅=約10.5m(現況+2.5m)、西側歩道幅=約10.0m(現況+0.5m)
(東側歩道については、約2.5m程度 現況よりも広がる。)

南広場全体面積=約7,500m²、そのうち歩道+広場面積=3,800m²
(円形公園周辺に、約1,500m²の広場空間が創出される)

東側歩道幅=約8.0m(現況どおり)、西側歩道幅=約10.0m(現況+0.5m)

交通

駅前広場の通過交通を現状維持

広場内通過交通は現状の約7~8割程度と想定される

大学通りに信号を設置しない(現状通り)

信号処理により、駅前広場の通過交通を抑制

広場内通過交通は現状の約3~4割程度まで減少する

大学通りに信号を設置することにより
交差点および広場内の安全性は改善される



□ 南口駅前広場検討平面図 案1:現状踏襲案

1. 基本的な考え方

- ・ 円形交差点（ロータリー形状）を維持し、現在と同様の自動車機能とします。
- ・ 基本的には現在の南口駅前広場と同じ使い方となります。

2. 歩行者空間の考え方

- ・ 駅舎前の歩道を拡幅できます。
- ・ 駅前の民間敷地に対しては、大学通りの幅の延長上には建物を建てない等の協力を求めています。

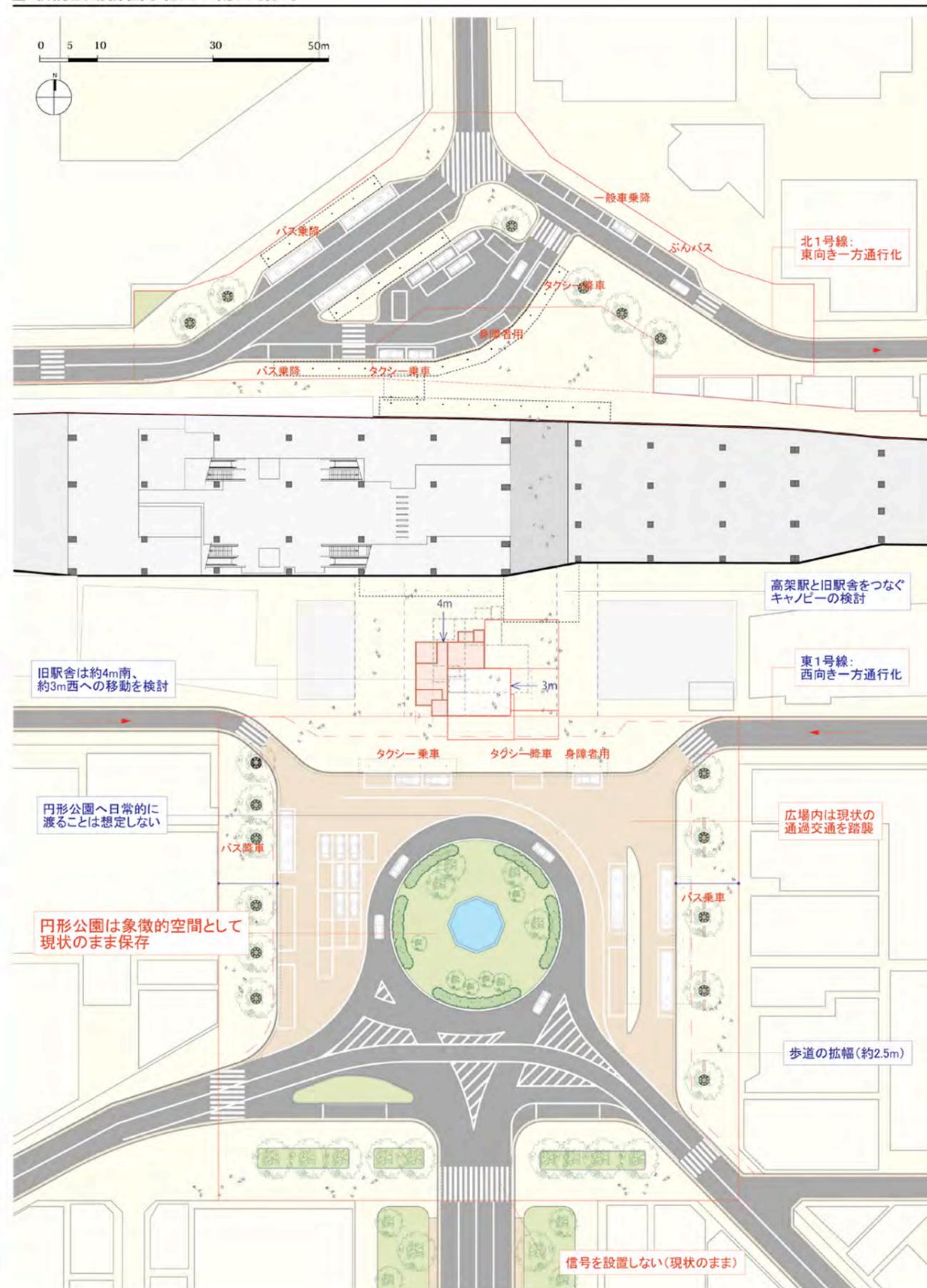
3. 円形公園活用の考え方

- ・ 日常的な立ち入り、活用は出来ません。
- ・ 警察や交通事業者の協力が必要となりますが、お祭りやイベント等を行う際には駅前広場を開放することを検討します。このような場合には、円形公園への立ち入り、活用が可能となります。

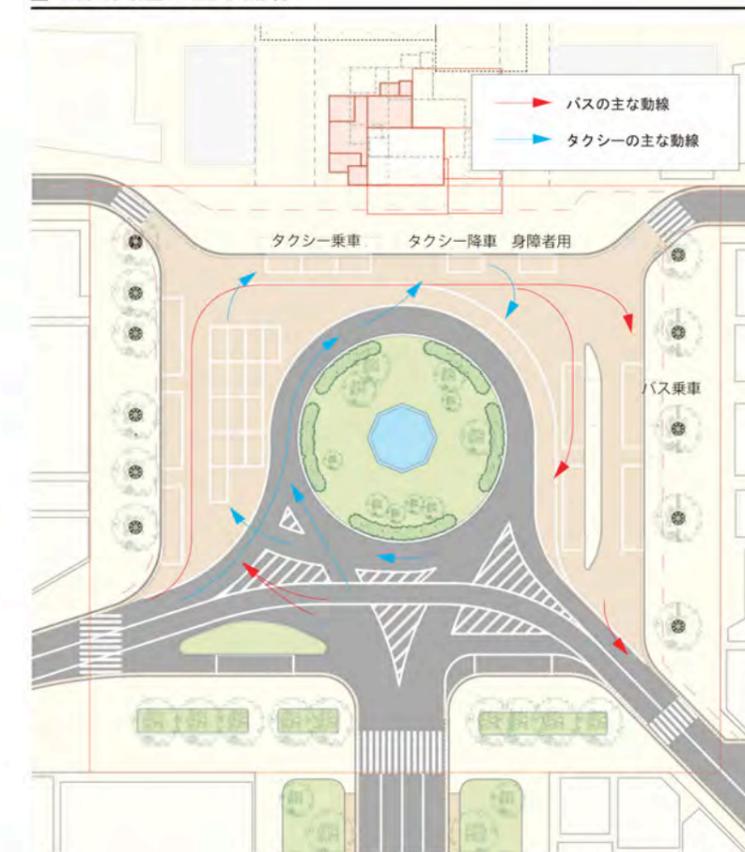
4. 交通環境改善の考え方

- ・ 東1号線は西向き一方通行とすることを検討中です。
- ・ 駅前広場内の自動車の主動線は、円形公園の周囲に設定します。
- ・ バス、タクシーなどの公共交通は、出来るだけ主動線の外側（歩道側）を利用することで通過交通と分離し、安全性を高めます。

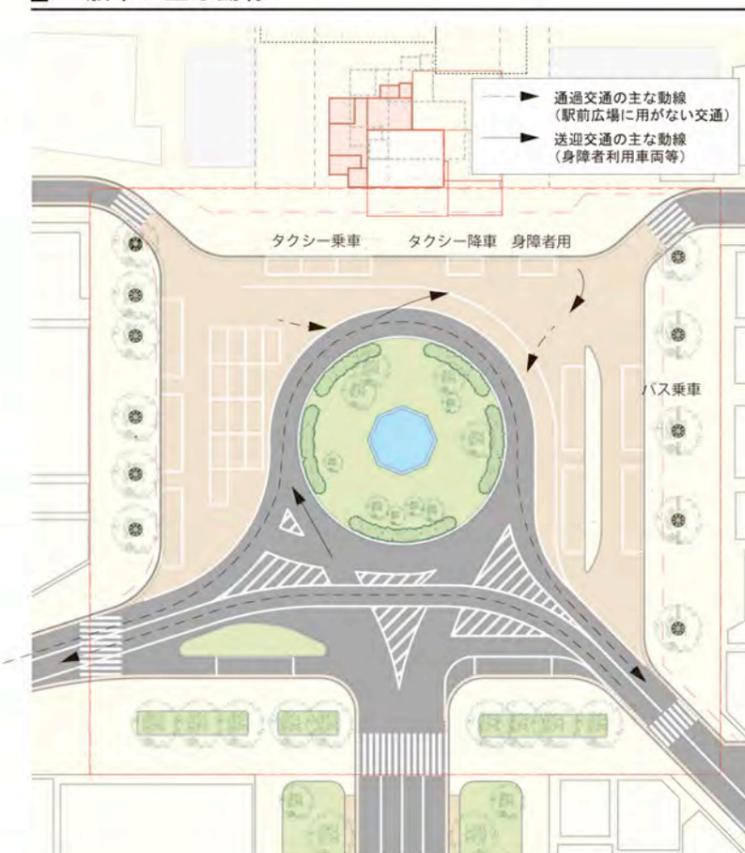
□ 駅前広場計画 [北口・南口 案1]



□ 公共交通の主な動線

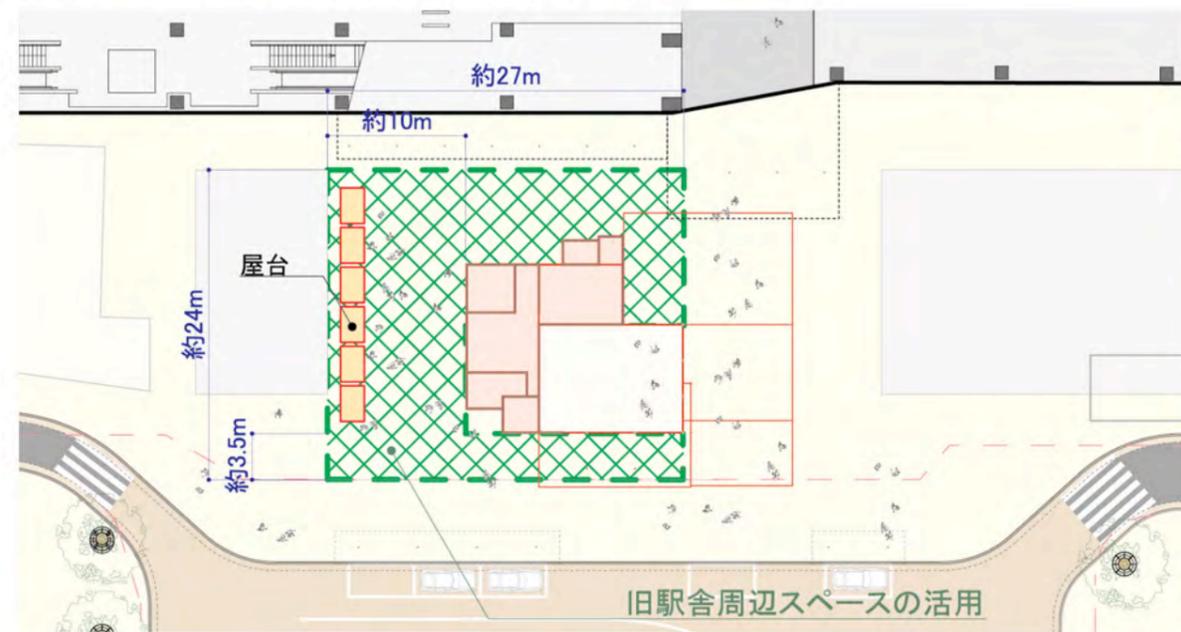


□ 一般車の主な動線



□ 南口駅前広場活用イメージ 案1:現状踏襲案

□ 活用イメージ 平常時〈旧駅舎周辺スペースの活用〉



■ 活用の例：

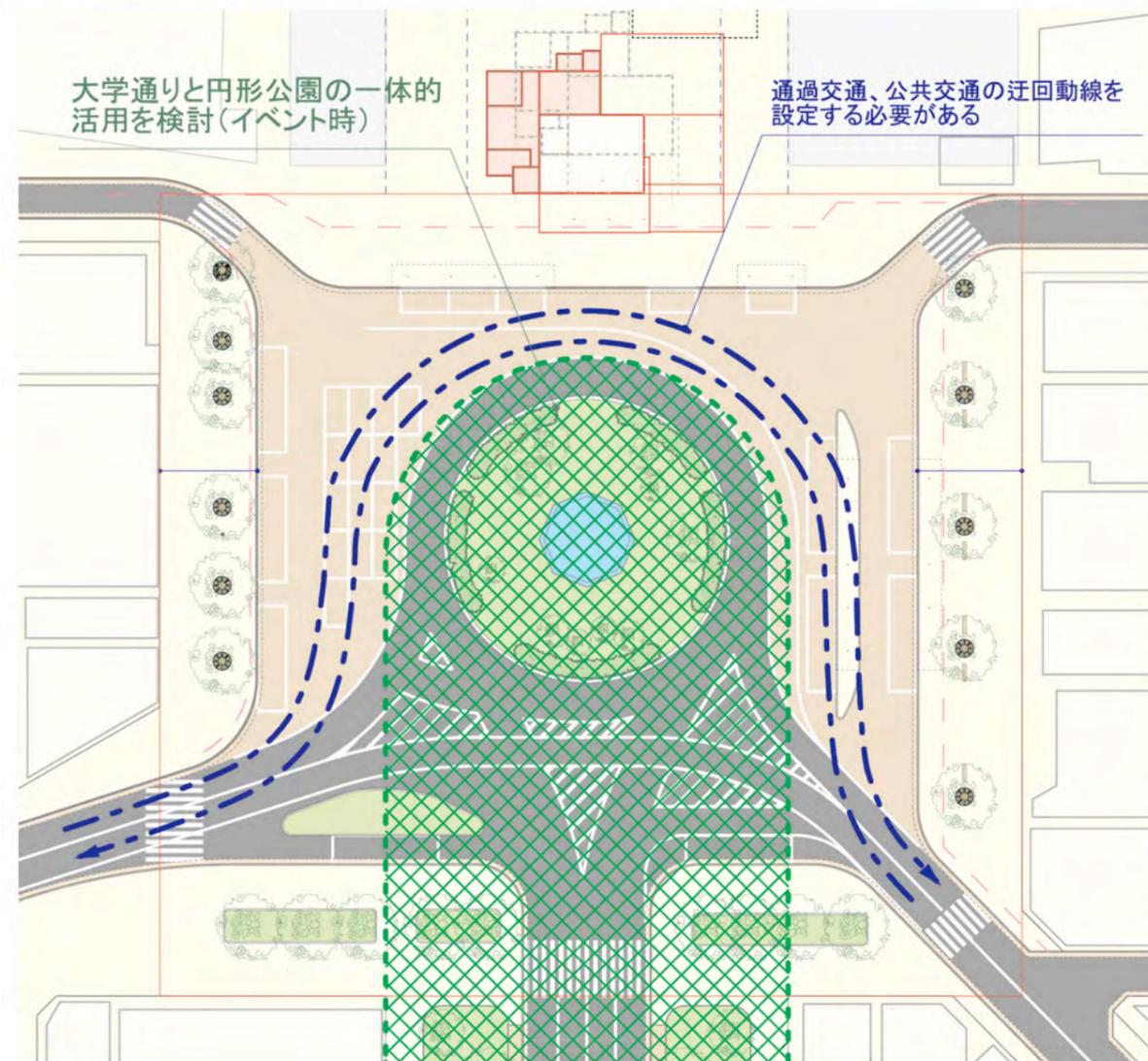
- ・旧駅舎西側（幅 10m 程度）など、旧駅舎の周辺を用いた屋台等の出店。
※JR 敷地と一体に用いるため協議が必要。



□ 模型写真



□ 活用イメージ イベント時〈大学通りと一体化した活用〉



■ 活用方法（※想定）

- ・富士見通りと旭通りの交通を確保しながら、イベント時に大学通りと円形公園を一体的に活用する。
- ・大がかりな交通規制となるため、年に1回程度の利用を想定。
例えば、くにたち市民まつりの歩行者を円形公園まで広げ、駅前にも活動を展開する、など。
- ・実現に向けては、下記の課題をクリアする必要がある。
- 周囲の道路も含めた交通規制の方法、バス、タクシーの乗降場所確保。
- ・警察、道路管理者を含めた安全対策等の検討、協議など。



1. 基本的な考え方

- ・ 円形公園を活用し、人々の憩いと賑わいの広場空間を創出します。
- ・ 駅前広場に用いない通過交通が入らないように工夫することで、円形公園に渡りやすくし、自動車交通の錯綜などが生じづらくします。
- ・ 駅に用のある一般車の広場内通行や寄付きは可能です。

2. 歩行者空間の考え方

- ・ 円形公園とその周囲を日常的に人々が入れる憩いの空間として活用します。
- ・ 駅舎側の歩道を拡幅できます。
- ・ 駅前の民間敷地に対しては、大学通りの幅の延長上には建物を建てない等の協力を求めています。

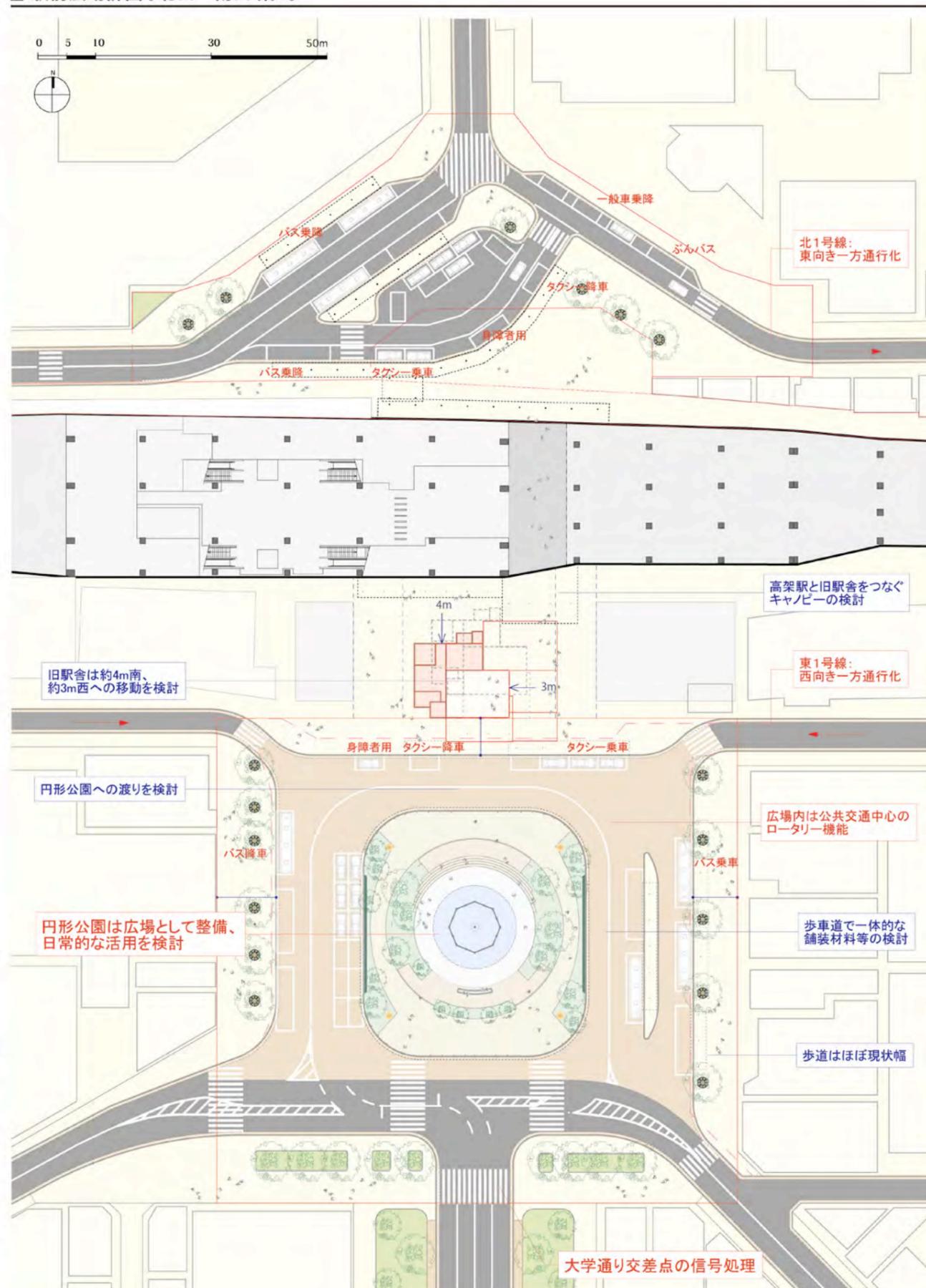
3. 円形公園活用の考え方

- ・ 円形公園を人々の憩いと活動が可能な水と緑の広場として再整備します。
- ・ 水を止めればフラットに使える噴水など、日常時と活動時で使い分けが可能なしつらえを検討します。
- ・ ベンチや園路など、人々が休み付むことのできる場所とします。

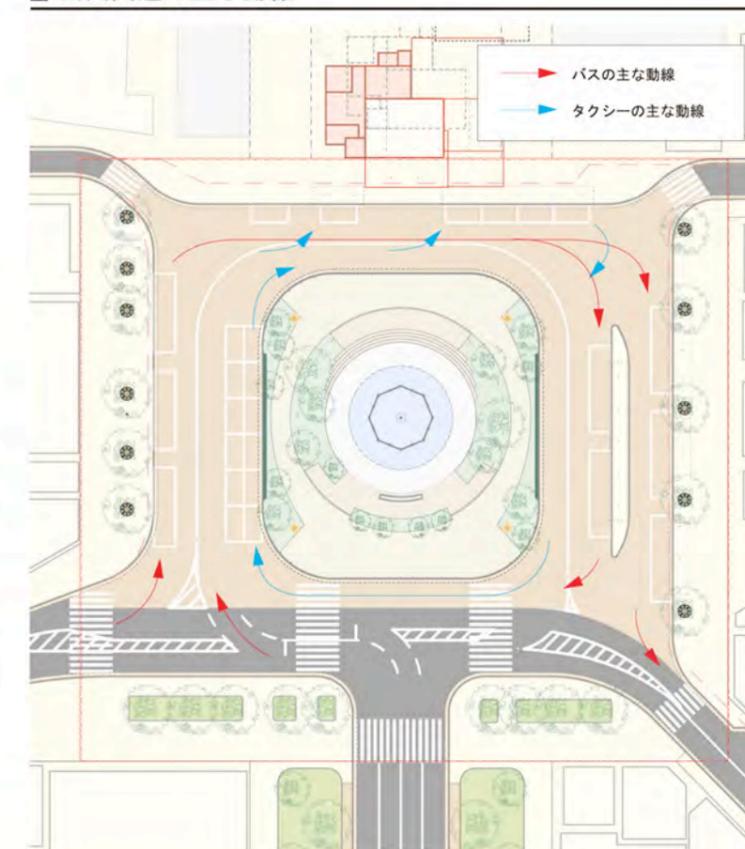
4. 交通環境改善の考え方

- ・ 東1号線は西向き一方通行とすることを検討中です。
- ・ 駅前広場内への通過交通（駅前広場に用事のない交通）の進入を抑制するため、大学通り接続部に信号を設置し、T字形の交差点とします。通過交通の進入を抑制することにより、駅前広場全体の交通の安全性を向上させます。
- ・ バス、タクシー等の機能はすべて駅前広場内に配置します。

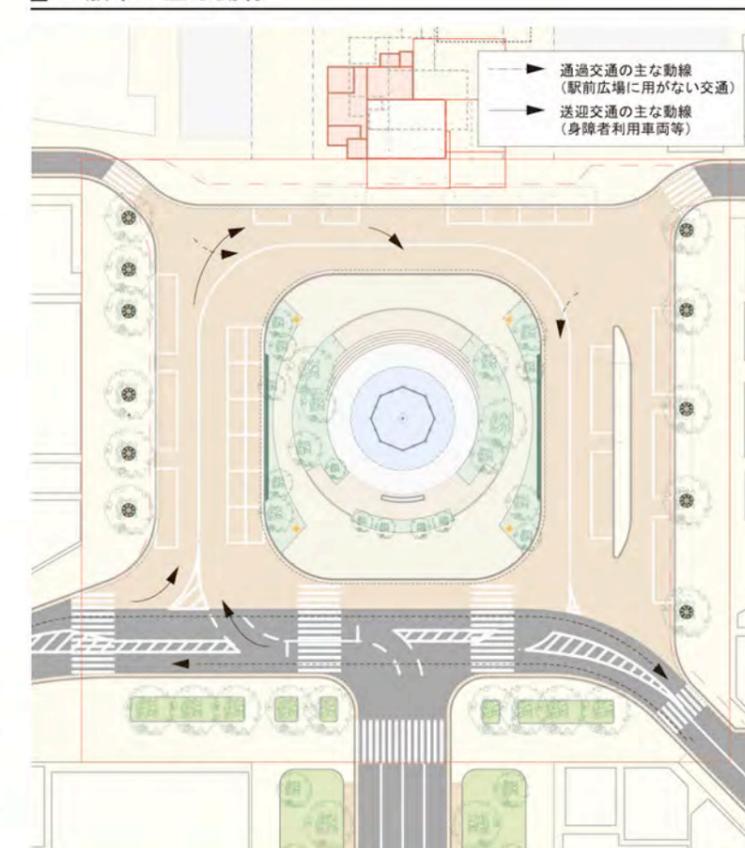
□ 駅前広場計画 [北口・南口 案2]



□ 公共交通の主な動線



□ 一般車の主な動線



□ 南口駅前広場活用イメージ 案2:円形公園活用案

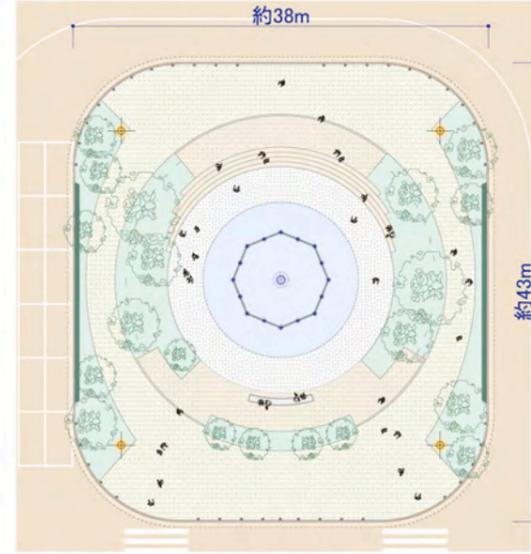
□ イメージパース 平常時



□ イメージパース 活動時



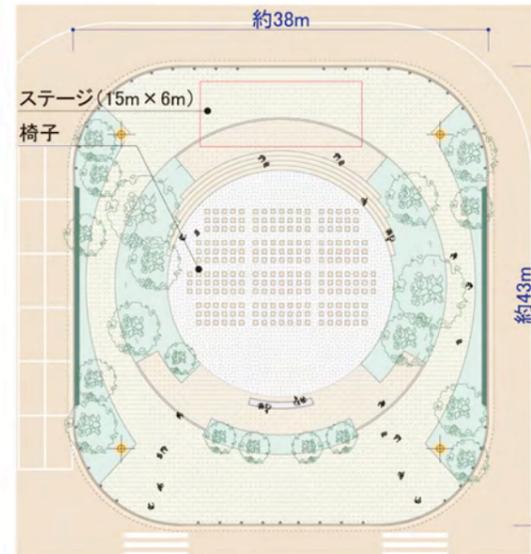
□ 活用イメージ 平常時



■ 噴水 + 憩いの空間



□ 活用イメージ 活動〈コンサート〉



■ コンサート

- ・ステージの大きさ: 1500mm x 1500mm
- ・席数: 約 230 席



□ 活用イメージ 活動〈マーケット・市場〉



■ マーケット・市場

- ・屋台数: 20 箇所 (1800mm x 2700mm)



□ 模型写真

